

政権安保に突進

野党「違憲」意地の抵抗

戦後の安全保障政策を大転換する安保関連法成立をめくり与野党は、衆参両院の本会議場を舞台に最後の攻防を繰り広げた。憲法違反の指摘が残る中、政権は数の力を背景に成立へと突き進んだ。内閣支持率下落などの「代償」を覚悟し、押し切る。成立を阻みたい野党は、内閣不信任決議案という切り札を出し、長時間の演説で採決を引延ばすなど戦術を駆使した。「平和国家の歴史に汚点になる」（民主党筋）として今後も抵抗することをやめない。●面参照

▼メンツ

主、維新、共産など野党五党が提出した内閣不信任案の審議の際には、議場内に響く自らの批判に静かに耳を傾けた。否決を確認すると、淡々とした表情で一礼し議場を後にした。民



野党が取った 主な安保法案の成立阻止策	
16日午後17日	参院特別委員会の前などに、議員が押し寄せ、午後6時予定だった開会を阻止
17日午前	鴻池特別委員長の不信任決議案を提出。午後、再開会された特別委員会の開会を阻止。午後、民主党議員が45分間の演説を続行し、開会を阻止
午後	与党は、最後に行う予定だった採決を、質疑の飛ぶに間に合えず、採決を中止。中川参院議長は、内閣不信任案を参院に提出。中谷防衛相は、内閣不信任案を参院に提出。与党は、各党の討論時間を制限する動きで対抗
18日午前	山崎参院議長は、内閣不信任案を参院に提出
午後	内閣不信任決議案を衆院に提出。鴻池氏の質問決議案を参院に提出

り論がひそかに唱えられた時期もあった。同党議員は「反対の声がこんなに充滿するとは全く想定しなかった」と打ち明けた。つじつと悲鳴にも聞こえる示さなかったのが首相だ。背景には、四月の訪米時に日本国内に先立ち今国会での成立を華々しく打ち上げたことがあったのは否定できない。自民党筋は「メンツにこだわる首相周辺の声に、先送り論はかき消された」と説明する。



衆院本会議での内閣不信任案が否決され、席を立ち一礼する安倍首相（前列右端）と閣僚ら。18日午後8時

▼犬の写真

五月二十六日に衆院から始まった安保審議。政権にとっては曲折の連続だった。攻防のピークとなった九月十七日の参院特別委員会で、鴻池祥肇委員長が座る委員長席に与野党議員が駆け寄り、もみくちゃになる中での採決に、鴻池氏は、野党議員に採決で読み上げる書類を奪われることに備え、犬の写真を印刷した紙十数枚をタミーとして準備。野党議員が机上に手を伸ばすたびにつかませた。鴻池氏は自民党幹部に「必ずやり遂げるから、任せてくれ」と伝えていた。だが採決強行の影響は小さくない。党関係者からは「支持率は10%ほど下がった。第2次政権以降で最低水準の30%前半になるだろう。来夏の参院選で討ち死にする同志も出てくるかもしれない」と懸念を隠さな

い。「この法案には多くの人的資源を投入した。必要だったと歴史が証明してくれ」と信じているしかない。政権幹部はつぶやいた。

▼長い演説

民主党の枝野幸男幹事長

は内閣不信任案の趣旨説明で「民主主義と立憲主義を破壊する戦後最悪の法案だ」と強調した。演説は十八日午後四時半すぎから、一時間半以上の異例の長さに及んだ。野党側はこれに先立ち、山崎正昭参院議長の不信任、首相問責などの決議案カードも切った。演説に臨む枝野氏に助言したが、菅直人元首相。過去に長時間演説をした経験に基づき、監視が排除に動く恐れもあるとして「演壇の下に潜り込めば、排除されるににくい」と伝えたという。

国会周辺に4万人超 デモ



雨の中、国会前で傘を差して安保関連法案に抗議の声を上げる人々。18日午後9時55分、東京・永田町で

国会周辺には十八日、主催者発表で四万人を超える人が詰め掛けた。正門前で歩道からあふれるほどに集まったデモ参加者と警備に当たる警察官が対峙。参加者らは、国会審議の行方を見守りながら、法案の廃案を訴えた。小遣いをばたき、愛知県から鈍行列車で六時間かけて駆けつけたという高校二年生、年賀浦直さん（17）は、学校でも耳を傾けるものだと言った。「数の力で強引に自分たちの意見を押し通すのが国会の民主主義なのか」。参院特別委員会の強行採決をテレビで見ると、じつとしていらなくなっ

た。四日続けて国会前を訪れた相模原市の建設会社役員大友敏明さん（60）は戦後、現行憲法とともに生きてきた自負がある。「この法案は、われわれ世代の生き方を否定しているのと同じ」と声を強めた。都内で中学生に英語を教えている米国籍の男性（40）はかつて米軍に在籍した。「戦争は悪いものだ」ということをよく知っているつもり。日本が戦後七十年、戦争をしなかったのは素晴らしいことだ」と強調した。大